

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-297956

(P2005-297956A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int.Cl.⁷

B60N 3/00

F I

B60N 3/00

B

テーマコード (参考)

3B088

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2005-112134 (P2005-112134)
 (22) 出願日 平成17年4月8日 (2005.4.8)
 (31) 優先権主張番号 102004017419.9
 (32) 優先日 平成16年4月8日 (2004.4.8)
 (33) 優先権主張国 ドイツ(DE)

(71) 出願人 502279962
 フィッシャー オートモーティブ システ
 ムズ ゲゼルシャフト ミット ベシュレ
 ンクテル ハフツング
 ドイツ連邦共和国 ホルプ インドウスト
 リーシュトラッセ 103
 (74) 代理人 100061815
 弁理士 矢野 敏雄
 (74) 代理人 100094798
 弁理士 山崎 利臣
 (74) 代理人 100099483
 弁理士 久野 琢也
 (74) 代理人 100114890
 弁理士 アインゼル・フェリックス＝ライ
 ンハルト

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ドリンクホルダ

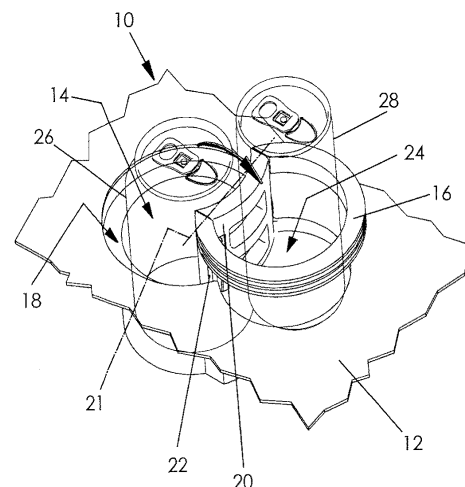
(57) 【要約】

【課題】 多面的に利用可能なドリンクホルダを提供する。

【解決手段】 ドリンクホルダであって、ドリンク容器を収容するための上方で開かれた収容部と、保持リングとが設けられており、該保持リングは基本位置で収容部の上縁部に位置しており、保持リングを第1保持位置にもたすことができ、該第1保持位置では保持リングは側方で収容部の上方に位置している形式のものにおいて、

保持リング(16)を第2保持位置にもたすことができ、該第2保持位置では保持リングは収容部(14)の上方に位置していて、収容部(14)に対して側方にずらされていない。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

ドリンクホルダであって、ドリンク容器を収容するための上方で開かれた収容部と、保持リングとが設けられており、該保持リングは基本位置で収容部の上縁部に位置しており、保持リングを第 1 保持位置にもたすことができ、該第 1 保持位置では保持リングは側方で収容部の上方に位置している形式のものにおいて、

保持リング (1 6) を第 2 保持位置にもたすことができ、該第 2 保持位置では保持リングは収容部 (1 4) の上方に位置していて、収容部 (1 4) に対して側方にずらされていないことを特徴とするドリンクホルダ。

【請求項 2】

10

ドリンクホルダ (1 0) がスライダガイド (2 2) を有しており、該スライダガイド (2 2) によって保持リング (1 6) が上方に向かって摺動可能にガイドされている、請求項 1 記載のドリンクホルダ。

【請求項 3】

ドリンクホルダ (1 0) が保持リング (1 6) のための旋回軸受 (3 4) を有していて、該旋回軸受 (3 4) によって保持リング (1 6) が側方に向かって旋回可能に案内されている、請求項 1 記載のドリンクホルダ。

【請求項 4】

旋回軸受が水平の旋回軸線 (2 1) を有している、請求項 3 記載のドリンクホルダ。

【請求項 5】

20

ドリンクホルダ (1 0) が、保持リング (1 6) のための解離可能な結合体 (4 0 , 4 2) を有しており、該結合体 (4 0 , 4 2) によって保持リング (1 6) が収容部 (1 4) の上方で収容部 (1 4) の側方にずらされて、または収容部 (1 4) に対してずらされずにドリンクホルダ (1 0) に固定可能である、請求項 1 記載のドリンクホルダ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、ドリンクホルダであって、ドリンク容器を収容するための上方で開かれた収容部と、保持リングとが設けられており、該保持リングは基本位置で収容部の上縁部に位置しており、保持リングを第 1 保持位置にもたすことができ、該第 1 保持位置では保持 30

【背景技術】**【0002】**

このような形式のドリンクホルダは公知であり、1つまたは2つのドリンク容器を自動車において保持するために用いられる。ドリンク容器は、ドリンク缶、カップ、コップ等であって良い。ドイツ連邦共和国特許第 4 4 2 9 5 1 5 号明細書により2つのドリンク容器のためのドリンクホルダが公知である。この公知のドリンクホルダは、ドリンク容器を収容するための収容部として円筒状の1つの凹部を有している。さらに公知のドリンクホルダは、折り畳み可能な2つの保持アームから成る1つの保持リングを有している。スライダガイドにより、保持リングは上方に向かって摺動可能であって、側方に向かって1つ 40

の保持位置へと旋回可能である。この保持位置では、保持リングが収容部の上方で、収容部に対して側方にずらされて位置している。基本位置では、(折り畳まれた)保持リングが収容部内に位置していて、この収容部は使用できない。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

本発明の課題は、多面的に利用可能なドリンクホルダを提供することである。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

この課題を解決するために本発明の構成では、保持リングを第 2 保持位置にもたすこ 50

とができ、該第2保持位置では保持リングは収容部の上方に位置していて、収容部に対して側方にずらされていないようにした。

【発明の効果】

【0005】

本発明によるドリンクホルダは、ドリンク容器を収容するための上方で開かれた収容部を有している。この場合、「上方」とはドリンクホルダの所定の取付位置に関する。収容部は例えば円筒状の凹部であって良い。さらに本発明によるドリンクホルダは、基本位置で収容部の上縁部に位置する保持リングを有している。この保持リングは、この場合、収容部へのドリンク容器の収容および取り出しを妨げない。保持リングは閉じられている必要はなく、保持リングが収容されたドリンク容器を、ドリンク容器が全ての方向で側方10
保持されるように取り囲み側方で支持していれば十分である。基本位置では、保持リングは機能を有しておらず、省スペース的に取り付けられている。ドイツ連邦共和国特許第4429515号明細書により公知のドリンクホルダとは異なり、本発明によるドリンクホルダは、保持リングが基本位置にある場合もドリンク容器を収容するために使用可能である。

【0006】

本発明によるドリンクホルダの保持リングは、側方で収容部の上方に位置する第1保持位置にもたすことができる。第1保持位置では、1つのドリンク容器はドリンクホルダの収容部に収容可能であって、第2のドリンク容器をその側方（かつ上方）お保持リングに収容可能である。このように、本発明によるドリンクホルダは2つのドリンク容器を保20
持するために適している。

【0007】

さらに本発明によるドリンクホルダの保持リングは第2保持位置にもたすことができる。第2保持位置では、保持リングはドリンク容器を収容するための収容部の上方に位置しているが、収容部の側方にはずらされておらず、収容部に整合している、またはほぼ整合している。保持リングの第2保持位置では、ドリンク容器はドリンクホルダ内に収容可能であって、ドリンク容器は保持リングによって収容部に収容される。収容部の上方に位置する保持リングは、収容されたドリンクホルダを比較的高い高さで保持している。これにより、本発明によるドリンクホルダは、例えば収容部では十分傾動しないようには保持30
されないボトルのような嵩高のドリンク容器を収容するのに適している。

【0008】

本発明によるドリンクホルダは、1つだけのドリンク容器を保持するためのドリンクホルダのために必要な構成スペースに取付可能であるという利点を有している。この場合、本発明によるドリンクホルダは、1つのまたは2つのドリンク容器を選択的に保持するために、または1つの嵩高のドリンク容器を保持するために適している。このような嵩高のドリンク容器は、第2保持位置に位置する保持リングによって比較的高い高さで側方から支持される。

【0009】

本発明の構成では、保持リングを上方に向かって摺動可能に案内するスライドガイドが設けられている。このような形式のスライドガイドは種々様々な構成が公知であり、例えば40
例えばテレスコピック式ガイドも適している。

【0010】

本発明の構成では、保持リングを側方へと旋回可能にガイドする旋回軸受が設けられている。別の構成では、水平の旋回軸線を有した旋回軸受が設けられている。即ち、一方の保持位置では保持リングの一方の端面が、他方の保持位置では保持リングの他方の端面が上方に位置している。旋回軸受により保持リングを簡単に側方へと運動可能に案内することができる。

【0011】

本発明の構成では、保持リングのための解離可能な結合体が設けられている。基本位置ではドリンクホルダの収容部の上縁部に位置する保持リングが解離可能に、ドリンクホル50

ダにおいて収容部の上方に固定可能である。この場合固定は、第1保持位置においては収容部に対して側方でずらされていて、第2保持位置においては収容部に対して整合して、またはほぼ整合して行うことができる。本発明のこのような構成により、最も単純な場合には2つの部分を備えたドリンクホルダの簡単な構成が得られる。即ち収容部自体と、第2の部分として保持リングとを有したドリンクホルダである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

次に図面につき本発明の実施例を詳しく説明する。

【0013】

図1～図3に示した本発明によるドリンクホルダ10は、図示されていない自動車のセンターコンソール12（図面にはその一部のみを示す）に組み込まれている。ドリンクホルダ10は円筒状の凹部を有しており、該凹部は、例えばドリンク缶、コップ、カップのようなドリンク容器を収容するための収容部14を形成する。さらにドリンクホルダ10は保持リング16を有しており、この保持リング16は図1に示した基本位置において、収容部14の上縁部に配置されている。本発明の図示した実施例では、保持リング16はその基本位置において、収容部14の上縁部に設けられた収容部14の環状段部状の拡大部18に挿入されており（図2および図3参照）、保持リング16はセンターコンソール12と同一平面を成すように収容部14内に沈められている。保持リング16は図示されていない旋回軸受でスライダ20の上端部に旋回可能に支承されている。スライダ20はプレート状で収容部14の直径に相応して湾曲されている。スライダ20は収容部14の周面に設けられた切欠内に配置されている。スライダ20はスライダガイド22によって鉛直方向で摺動可能にドリンクホルダ10内に案内されており、スライダガイド22は溝・キーガイドとして形成されている。図1に示した基本位置では、スライダ20はセンターコンソール12内に沈められていて、上方でセンターコンソール12と同一平面を成している。

【0014】

スライダ20の上方に向かう摺動により、保持リング16は保持位置にもたらされる。この保持位置では保持リング16は収容部14の上方に位置している。この場合、2つの保持位置がある。即ち図2に示した以下で第2保持位置と言う保持位置と、図3に示した第1保持位置である。第2保持位置では、保持リング16は収容部14に整合して収容部14の上方に位置し、第1保持位置では、保持リング16は旋回軸受の水平の旋回軸線21を中心として、スライダ20の収容部14とは反対の側に旋回されている。第1保持位置では保持リング16は収容部14の上方に位置し、側方で収容部14に対してずらされている。第1保持位置において保持リング16の下方には、収容されたドリンク容器の底部を受容するための低い円筒状の凹設部24が位置している。

【0015】

図4に示したように、保持リング16の第1保持位置ではドリンク容器、例えばドリンク缶26を収容部14に、第2のドリンク容器、例えばドリンク缶28を保持リング16に収容することができる。本発明によるドリンクホルダ10は即ち2つのドリンク容器26、28を保持することができる。図5に示したように、保持リング16の基本位置では、例えばコップ30のようなドリンク容器をドリンクホルダ10の収容部14に収容することができる。図6に示したように第2保持位置では、例えばボトル32のように比較的高いドリンク容器を保持リング16によってドリンクホルダ10の収容部14に収容することができる。収容部14の上方に位置する保持リング16は比較的高い高さでボトル32を側方から支持するので、ボトル32は傾動しないようにドリンクホルダ10に保持されている。

【0016】

図7～図9に示した本発明によるドリンクホルダ10は旋回軸受34と鉛直の旋回軸線21を有している。この旋回軸受34で保持リング16は旋回可能にスライダ20に支承もしくは案内されている。その他の点では、図7～図9に示したドリンクホルダ10は、

図１～図６に示したドリンクホルダ１０と同様に形成されていて、同様に機能する。繰り返しを避けるために、図７～図９のドリンクホルダ１０の説明は、図１～図６のドリンクホルダ１０についての上記説明を参照されたい。同じ構成部分には同じ符号付を与してある。

【００１７】

図１０～図１３に示した本発明によるドリンクホルダ１０は、保持リング１６用の解離可能な結合体を有している。解離可能な結合体は本発明の図示した実施例ではバヨネット接続部として構成されている。その他の解離可能な結合体も可能である。

【００１８】

特に図１１に示したように、ドリンクホルダ１０の保持リング１６は、下方に向かって突出する２つの舌片３６を有している。これらの舌片３６は円筒状であって、保持リング１６と同じ半径を有していて、それぞれほぼ９０°にわたって周方向で延びていて、互いに向かい合って配置されている。図１０～図１３に示したドリンクホルダ１０の収容部１４は、舌片３６に対して相補的な切欠３８を周面に有している。図１０に示した基本位置では、保持リング１６は、本発明の前述した実施例の場合と同様に収容部１４の上縁部における環状段部状の拡大部１８に挿入されており、センターコンソール１２と同一平面を成している。保持リング１６の舌片３６は、収容部１４の切欠３８内に位置している。

【００１９】

保持リング１６を保持位置にもたすために、保持リング１６は上方に向かって収容部１４から引き出されていて（図１１参照）、図１２および図１３に示したように両保持位置にもたされる。保持リング１６のバヨネット接続部は、周方向で延びる溝４０を、舌片３６の、保持リング１６とは反対の側の下端部に有している。この溝は、収容部１４の上縁部における環状段部状の拡大部１８と、収容部１４の側方に位置する凹設部２４とに設けられたリブ４２と協働する。収容部１４に設けられたリブ４２は、保持リング１６の舌片３６のための収容部１４の切欠３８に対して周方向で約９０°ずらされている。第１保持位置において固定するために、保持リング１６の舌片３６は凹設部２４に挿入され、約９０°回転させることにより、保持リング１６の舌片３６の溝４０がリブ４２と係合させられる。即ちバヨネット接続部４０，４２は閉じられ、保持リング１６は第１保持位置でドリンクホルダ１０に結合される。図１～図９と同様に、図１０～図１３のドリンクホルダ１０の保持リング１６は、図１３に示した第１保持位置では、収容部１４の上方で側方にずらされて、凹設部２４の上方に位置している。

【００２０】

図１２に示した第２保持位置では、保持リング１６の舌片３６の溝４０は約９０°の回転により収容部１４のリブ４２に係合する。即ちバヨネット接続部４０，４２が閉じられ、保持リング１６は解離可能にドリンクホルダ１０に結合される。保持リング１６はこの第２保持位置で収容部１４の上方に収容部１４に整合して位置している。

【図面の簡単な説明】

【００２１】

【図１】本発明による第１実施例のドリンクホルダを基本位置で示した斜視図である。

【図２】本発明による第１実施例のドリンクホルダを第２保持位置で示した斜視図である。

【図３】本発明による第１実施例のドリンクホルダを第１保持位置で示した斜視図である。

【図４】本発明による第１実施例のドリンクホルダを、第１保持位置で２つのドリンク缶を収容した状態で示した斜視図である。

【図５】本発明による第１実施例のドリンクホルダを、基本位置でコップを収容した状態で示した斜視図である。

【図６】本発明による第１実施例のドリンクホルダを、第２保持位置でボトルを収容した状態で示した斜視図である。

【図７】本発明による第２実施例のドリンクホルダを基本位置で示した斜視図である。

【図 8】本発明による第 2 実施例のドリンクホルダを第 2 保持位置で示した斜視図である。

【図 9】本発明による第 2 実施例のドリンクホルダを第 1 保持位置で示した斜視図である。

【図 10】本発明による第 3 実施例のドリンクホルダを基本位置で示した斜視図である。

【図 11】本発明による第 3 実施例のドリンクホルダを、保持リングが引き出された状態で示した斜視図である。

【図 12】本発明による第 3 実施例のドリンクホルダを第 2 保持位置で示した斜視図である。

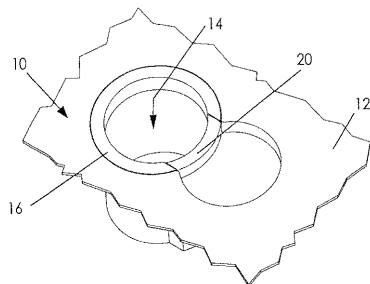
【図 13】本発明による第 3 実施例のドリンクホルダを第 1 保持位置で示した斜視図である。 10

【符号の説明】

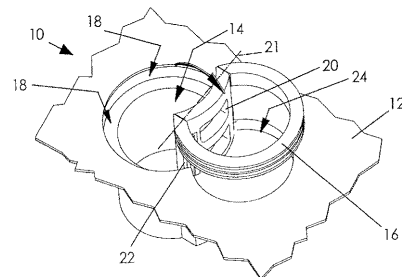
【 0 0 2 2 】

10 ドリンクホルダ、 12 センターコンソール、 14 収容部、 16 保持リング、 18 拡大部、 20 スライダ、 21 旋回軸線、 22 スライダガイド、 24 凹設部、 26, 28 ドリンク缶、 30 コップ、 32 ボトル、 34 旋回軸受、 36 舌片、 38 切欠、 40 溝、 42 リブ

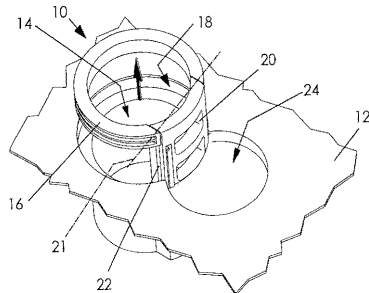
【図 1】



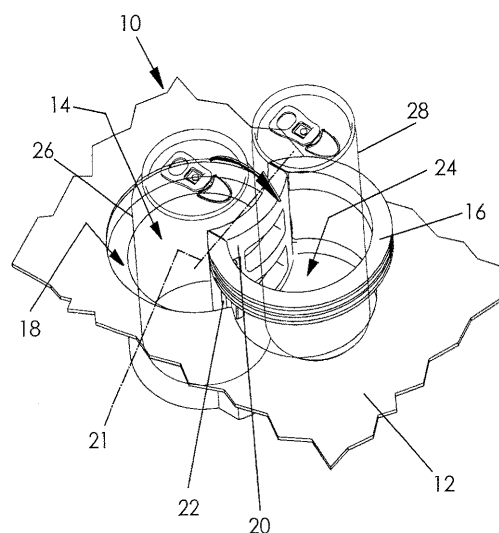
【図 3】



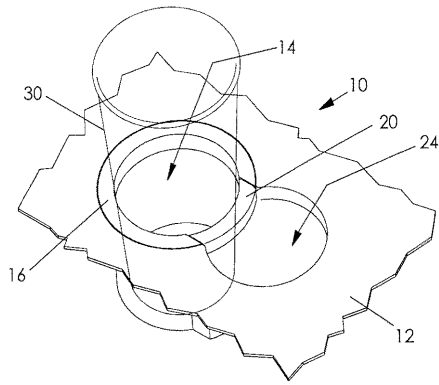
【図 2】



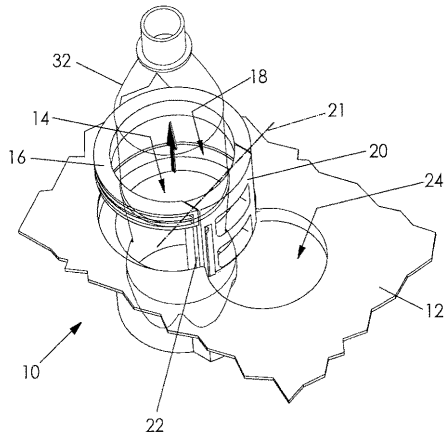
【図 4】



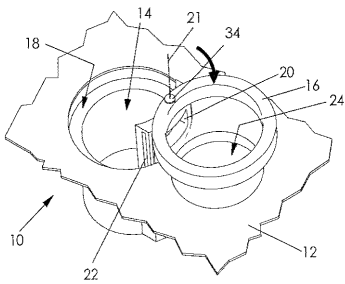
【図 5】



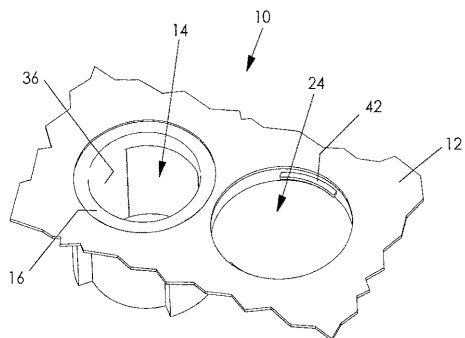
【図 6】



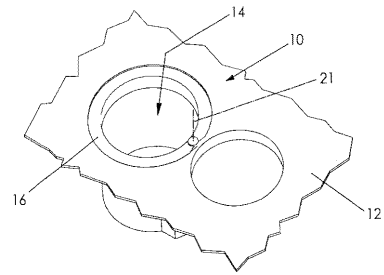
【図 9】



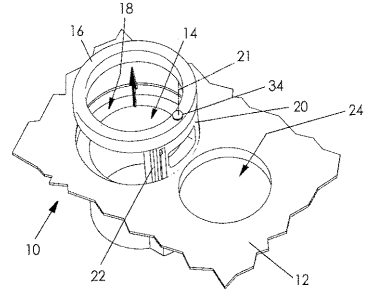
【図 10】



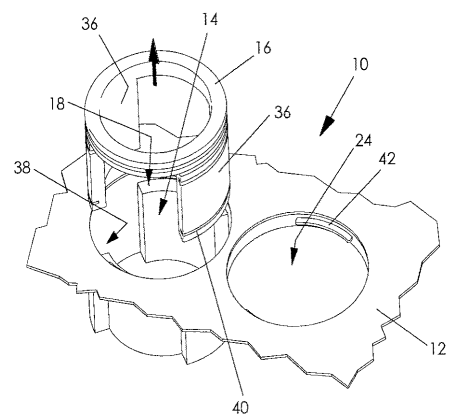
【図 7】



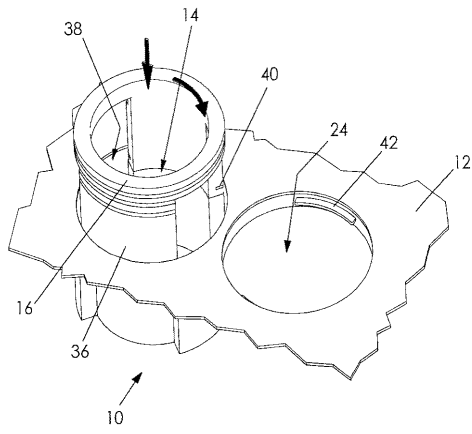
【図 8】



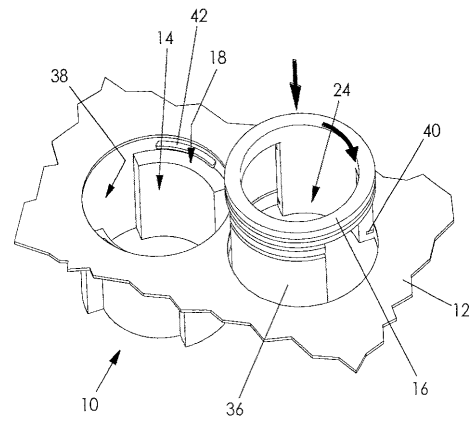
【図 11】



【図 1 2】



【図 1 3】



フロントページの続き

(74)代理人 230100044

弁護士 ラインハルト・アインゼル

(72)発明者 ファルク シャール

ドイツ連邦共和国 アルピルスバッハ オーベラー ズルツベルク 7

F ターム(参考) 3B088 LA01 LB01